

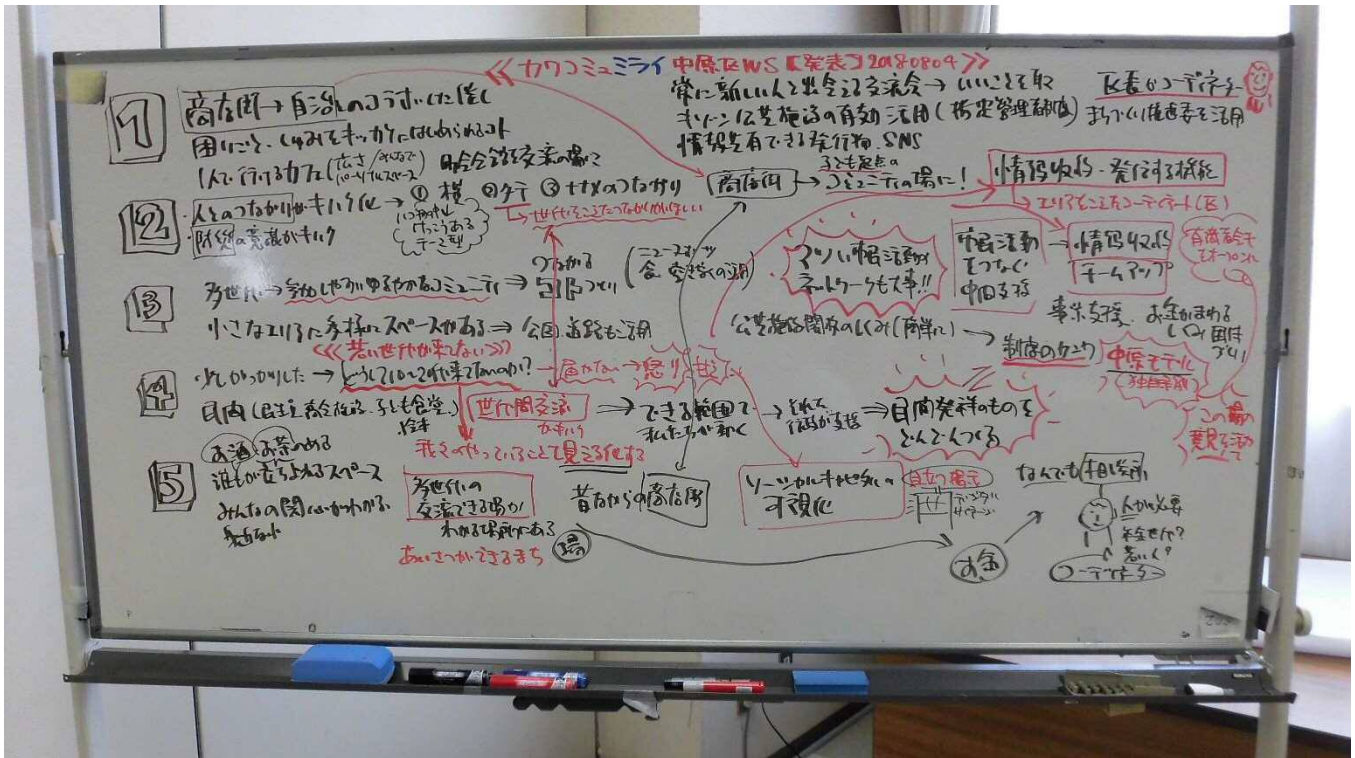
これからの地域づくりを考える
市民検討会議ワークショップ
中原区 開催結果概要

- ◎開催日時 2018(平成30)年8月4日(土) 13:30~16:50
- ◎開催場所 中原区役所5階503会議室
- ◎参加者 30名 他30名(事務局、コンサルタント、各区傍聴者)
- ◎内容 開会あいさつ 阿部市民文化局コミュニティ推進部長
ワークショップの目的と進め方
グループワーク
・自己紹介
・テーマ1 地域おける検討ポイント
・テーマ2 区域おける検討ポイント
グループワークの発表
閉会あいさつ 小野中原区役所企画課長

◎出された主な意見

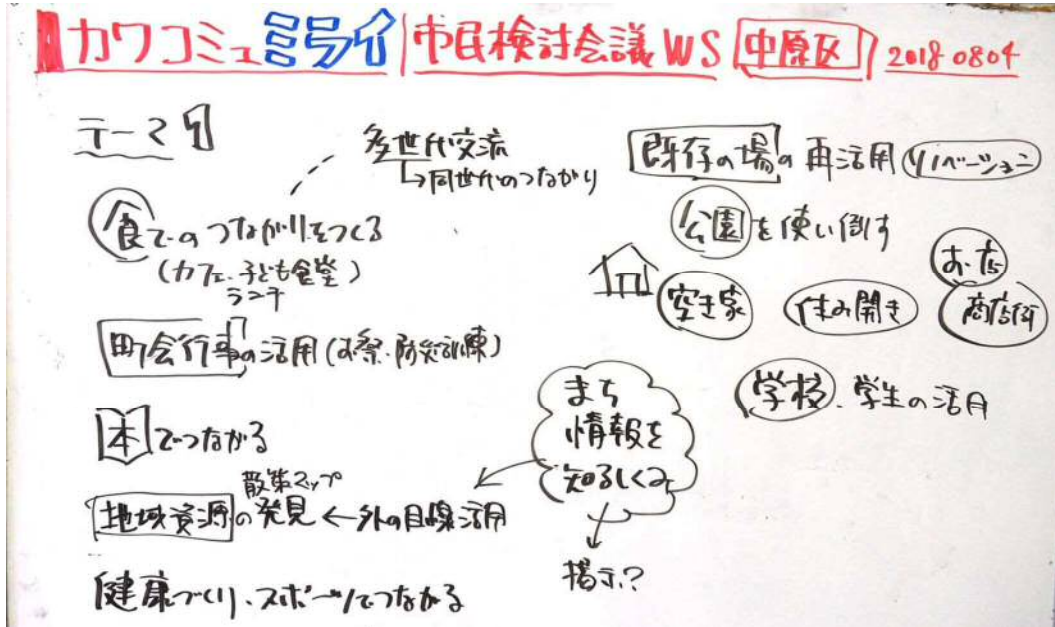
- ・商店街とコラボレーションした取組を、商店街を子ども起点のコミュニティの場に
- ・人のつながりが希薄化している、ヨコ、タテ、ナナメのつながりをつくるのがポイント
- ・誰もが立ち寄れる、多世代が参加しやすいゆるやかなコミュニティスペースが必要
- ・小さなエリアに多様なスペースがあるといい、既存公共施設、道路や公園も活用を
- ・未来を担う若い世代の参加を、そのための情報発信力の強化を
- ・行政に頼るだけでは未来は切り拓けない、自分たちで動くことも大切





市民検討会議ワークショップ（中原区）のまとめ

5つのグループの Point



テーマ1 地域における検討ポイント

つながるためのキッカケ・しくみ

- 食でのつながりをつくる
→カフェ、ランチ、子ども食堂
- 多世代交流 ⇔ 同世代のつながり
- 町会行事の活用
→お祭り、防災訓練
- 本でつながる
- 健康づくり、スポーツでつながる

まちの情報を知るしくみ

- 掲示板の活用 サイネージ等の情報掲示による見える化
- 地域資源の発見
→散策マップ

- 町会会館、マンションの交流室を交流の場に
- 既存の公共施設の有効活用（なかはらっば）
- 常に新しい人と出会える交流会
 - 他区域のいいところ取りができる
- 情報共有できる発行物、ご近所版 SNS の活用
- 区長がコーディネーターに
- まちづくり推進委員を活用しよう

2グループ

- 人とのつながりが希薄化
 - ①横（同世代）、②縦（世代間）、③斜め（年代の近いつながり）
 - ①横のつながりは足りている。箱物の中、結構あるテーマ型
 - ②③縦のつながり、世代を越えたつながりが欲しい！
- 防災の意識が希薄
- 商店街に後継者がいない
 - シニアと子どもの交流の場に
- 子どもが地域の人をつなぐハブになる
- 情報集約・発信する機能
 - エリアを越えたコーディネート（区）

3グループ

- 多世代が参加しやすいコミュニティ
 - つながるコトづくり
 - ニュースポーツ、食、空き家の活用
- 小さなエリアに多様なスペースがある
 - 公園、道路も活用
- 熱い市民活動のネットワークも大事

- 市民活動をつなぐ中間支援
 - 情報集約・チームアップ
 - 事業支援
 - お金が回るしくみ・団体づくり
- 公共施設開放のしくみ（簡単に）
 - 制度の緩和
- 中原区モデル（独自条例など）
 - 特区の活用、制度づくりへの市民参加、担当が代わってもしくみが残る
- 有識者会議の内容をもっとオープンに、この場の意見を活用

4グループ

- このワークショップに若い世代（10～20代）が来ていないことにごっかりした
 - 情報が届かないことへの怒り、もっと人を集める努力ができなかった甘え
 - ワークショップで我々のやっていることを見える化する必要がある
- 民間の力が大事！できる範囲で私たちが動く
（民生委員、高齢者施設、子ども食堂、絵本）
 - 世代間交流が希薄
 - それで行政が支援
 - 民間発祥のものをどんどんつくる

5グループ

- 誰もが立ち寄れるスペース
 - お酒、お茶が飲める場所
- みんなの関心が分かる身近な情報
- 多世代の交流ができる場が分かる場所にある
- あいさつができるまち
- 昔ながらの商店街
- ソーシャルキャピタルの可視化

- 目立つ掲示をする
- デジタルサイネージ

○何でも相談所・コーディネーター

- 人が必要
- 年金世代？若い人？

これからの地域づくりを考える

市民検討会議ワークショップ

「地域でつながるって楽しい！」～参加と協働の新たなしくみワークショップ～

宮前区 開催結果概要

◎開催日時 2018(平成30)年8月5日(日) 13:30～16:50

◎開催場所 宮前区役所4階大会議室

◎参加者 34名 他25名(事務局、コンサルタント、各区傍聴者)

※事業者、区職員(企画課・地域振興課・地域ケア推進担当、地域支援担当)もグループワークに参加

◎内容 開会あいさつ 阿部市民文化局コミュニティ推進部長

ワークショップの目的と進め方

グループワーク

- ・テーマ1 自己紹介を通して活動の強みや得意分野を出し合おう
- ・テーマ2 「こうなったらいいなと思う10年後の地域の姿」を出し合おう
- ・テーマ3 「こうなったらいいなと思う10年後の地域の姿」を実現させるためのアイデアを出し合おう

グループワークの発表

閉会あいさつ 小田嶋宮前区長

◎出された主な意見

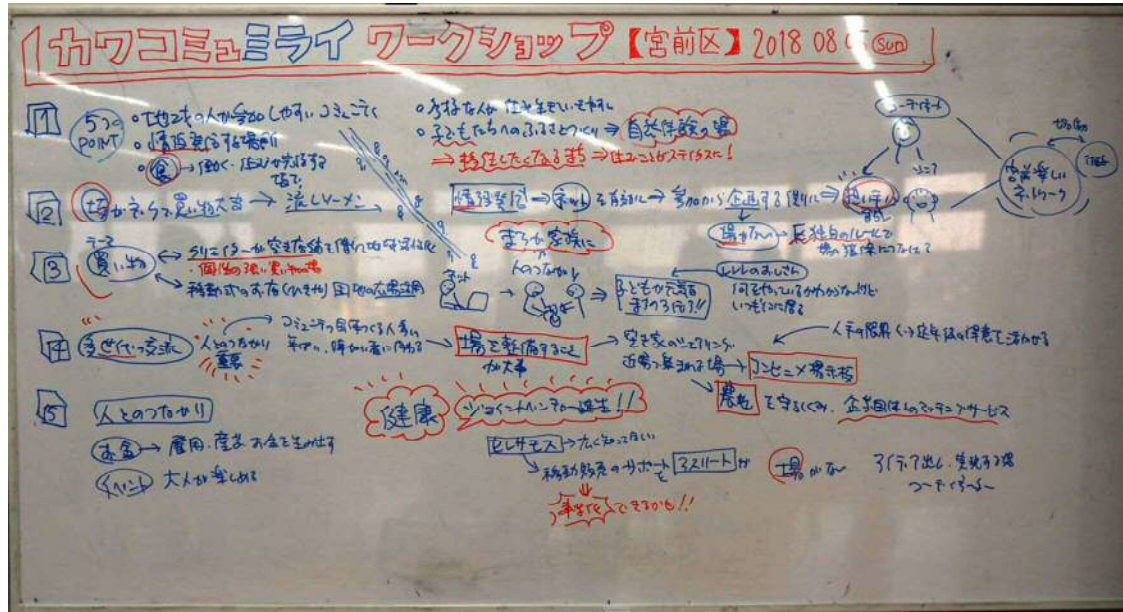
- ・地域の人が参加しやすいコミュニティ、情報発信する場、多様な人が住みやすいまちに
- ・坂のまちのデメリットを逆転の発想で楽しむ、富士見坂で流しソーメンのイベントをしかける
- ・団地の広場空間を活用した移動式店舗で買い物難民の解消、クリエイターの空き店舗活用
- ・人とのつながり、多世代交流が大切、空き家、農地、コンビニなど多様な空間活用で場の整備
- ・新しい地域での働き方が可能となるような雇用の場や産業、お金を生み出すことが必要
- ・企業と市民活動団体のマッチング、それらをつなぐコーディネーター機能が重要





市民検討会議ワークショップ（宮前区）のまとめ

グループ発表



1グループ

- 地域の人に参加しやすいコミュニティ
- 情報発信する場所
- 食→働く・住むが完結する
- 多様な人が住み、生きていきやすい
- 子どもたちへのふるさとづくり→自然体験の場
→移住したくなるまち→住むことがステータスに！

2グループ

- 坂がネックで買い物が大変
→坂で流しソーメンをするなど逆転の発想を

○情報発信が必要

- ・ ネットを有効に活用する
- ・ 場がないことが課題
 - 参加から企画する側に
 - 区独自のルールで場の確保につなげて

○担い手の育成が必要

- シニアによるコーディネート及び担い手育成
- 宮前楽しいネットワークをつくる（⇔行政と協働で）

3グループ

○テーマ：買い物を通して地域を活性化

- クリエイターが空き店舗を借りて地域活性化→個性の強い買い物の場をつくる
- 移動式のお店（ひきや）団地の広場活用

○まちが家族に

- ・ ネットから人のつながりができてまちが家族に
- ・ 子どもが元気なまちにはレレレのおじさんのような、何をやっているか分からないけど、いつもそこに居る存在が大事

4グループ

○多世代の交流→人とのつながりが重要！

- ・ コミュニティの団体をつくる人が多い、年配、障害者に関わる

○場を整備することが大事

- 空き家のシェアリング、近場で集まれる場
- コンビニを地域の場として活用（掲示板もコンビニに）
- 人手の限界⇔定年後の得意を生かせる

○農地を守るしくみができている

○企業団体のマッチングサービスがある

5グループ

○人とのつながり

- ・ お金→雇用、産業、お金を生み出す
- ・ イベント 大人が楽しめる

○健康をテーマにグループからジョイントベンチャー誕生！

- ・ セレサモスの移動販売を区内のアスリートが行うビジネスモデル
 - 区内の野菜のこともアスリートのことも広く知ってほしい
 - 事業化できるかも！！

○場がない

- ・ アイデア出し、実現する場、コーディネーターが必要

これからの地域づくりを考える

市民検討会議ワークショップ

麻生区 開催結果概要

◎開催日時 2018(平成30)年8月18日(土) 13:30～16:30

◎開催場所 麻生区役所4階第1会議室

◎参加者 30名 他26名(事務局、コンサルタント、各区傍聴者)

◎内容 開会あいさつ 阿部市民文化局コミュニティ推進部長

ワークショップの目的と進め方

・麻生区の市民活動～麻生の皆さんと積み重ねたあゆみ～

グループワーク

・自己紹介

・テーマ1 活動を上げていく上であったらいいものを出し合おう

・テーマ2 地域活動のきっかけづくりのアイデアを出し合おう

・テーマ3 住民同士、団体同士がつながることであまれるものって何だろう？

お互いが協力することでできることについて、アイデアを出し合おう

グループワークの発表

閉会あいさつ 多田麻生区長

◎出された主な意見

・ふらっと来て気軽に使える場を拠点とした子どもや親の交流の担い手づくり

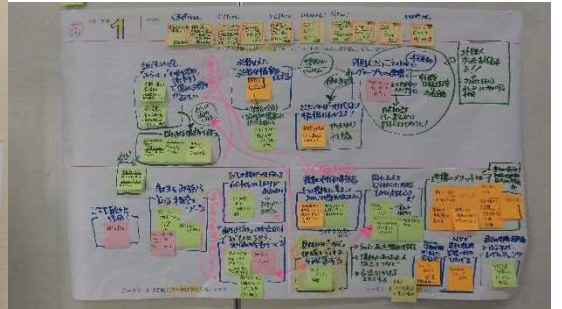
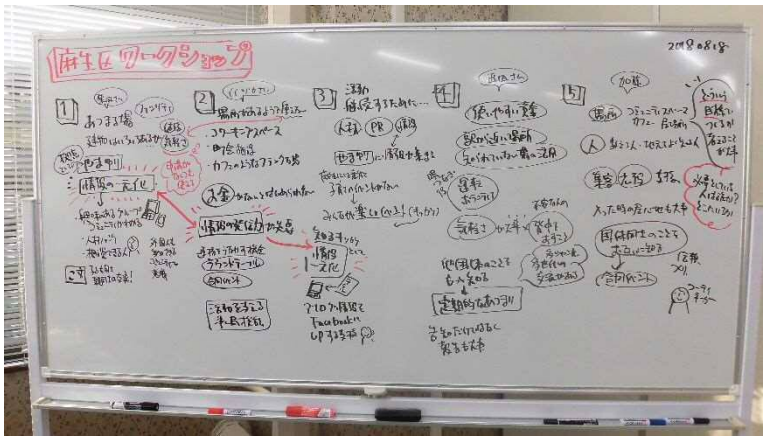
・コワーキングスペースや空き家を活用した街かどカフェの整備、気軽に参加できるラウンドテーブルが必要

・活動を知るきっかけとして情報の一元化が必要。アナログ情報をFacebookにアップする支援があると良い

・団体同士のことをお互いを知る定期的な集まりや合同イベントを開催

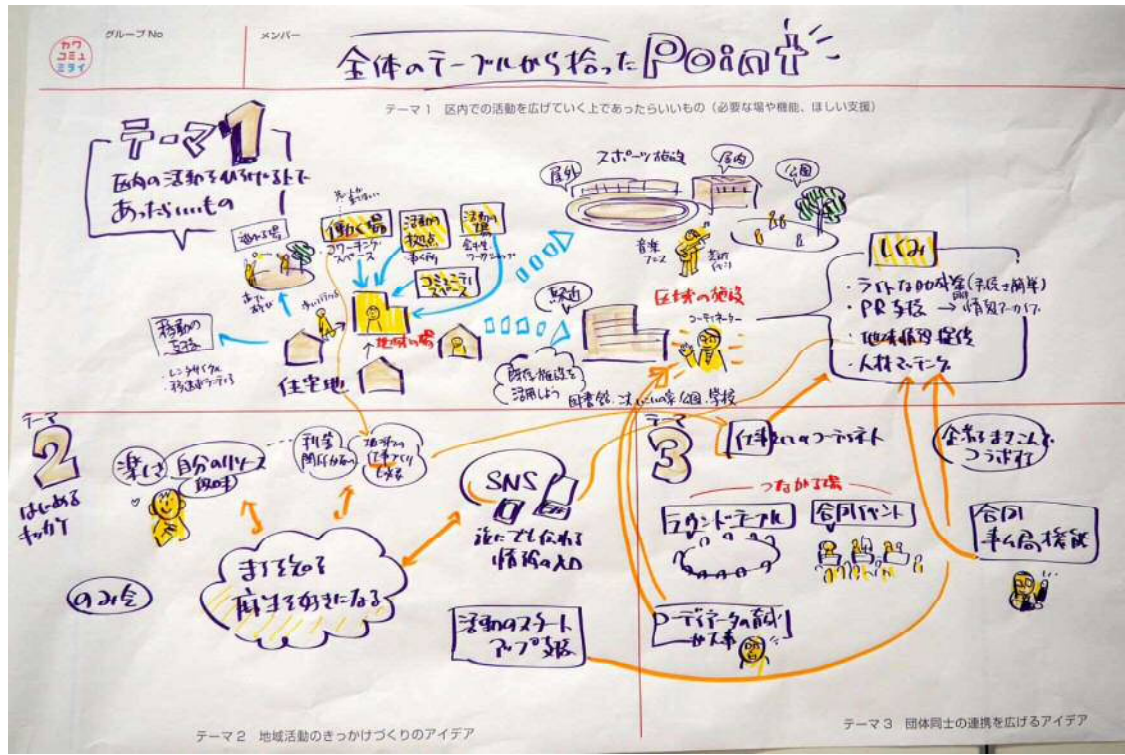
・そこに関わる人の思いや考えを活かした場づくり、目標をつくってから場づくりを行うことが重要





市民検討会議ワークショップ（麻生区）のまとめ

5つのグループの Point



テーマ1 区内の活動を広げる上であったらいいもの

地域の間 ～住宅地（歩いていける範囲に地域の間がある）

- 働く場
 - 地域の中に若い人がいる状況をつくるには、地域に仕事をつくる
 - コワーキングスペース
- 市民活動の拠点
 - 団体の事務所として使えるスペース
 - 会議やワークショップができる
- コミュニティスペース
- 遊べる場

→子どもが気軽にボール遊びなどができる

○既存施設を地域の場として活用しよう

→こども文化センター、いこいの家、公園、学校

○移動の支援

→レンタサイクル

→移送ボランティア

区域の施設

○屋外スポーツ施設、雨天でも使える屋内スポーツ施設、公園の活用

→音楽フェス、芸術イベントができると良い

○全区レベルの活動を支援する施設

→駅近にある

→コーディネーターがいる

○コーディネーターのしくみ

→ライトな助成金（手続きが簡単であることが大切）

→PR 支援／活動団体情報のアーカイブ

→地域情報の提供

→人材のマッチング

テーマ2 地域活動をはじめるキッカケ

○まちを知る、麻生を好きになることが地域とつながるきっかけになる

○自分のリソースや、趣味を生かせる

→楽しさが大事

→利害関係がない

→飲み会など敷居の低い入り口

○地域での仕事づくりも必要

→地域の働く場でできると良い

○SNS の活用、誰にでも伝わる情報の入り口

テーマ3 団体同士の連携を広げるアイデア

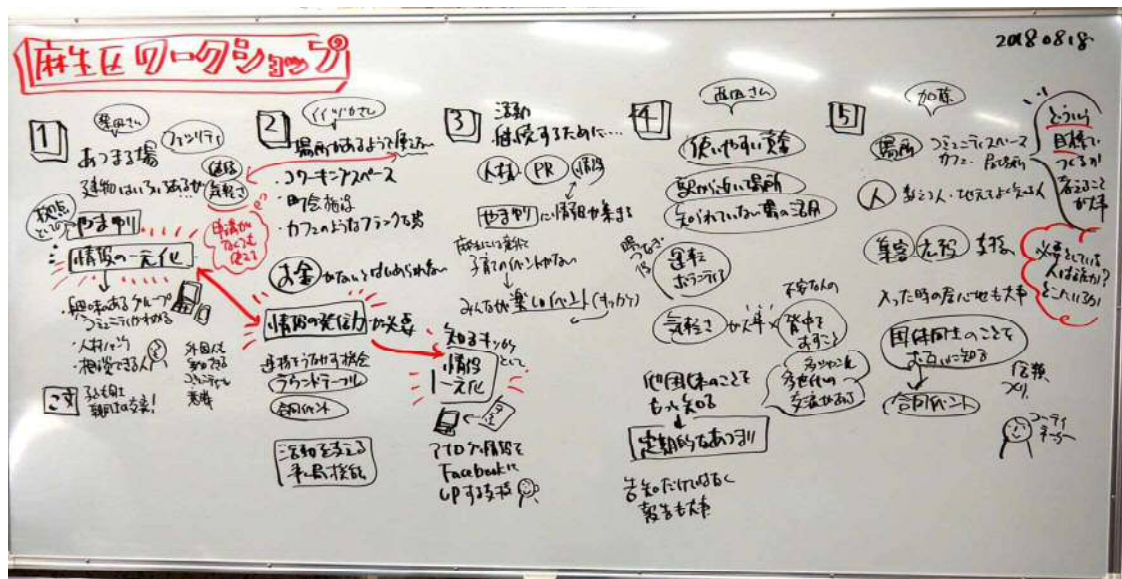
つながる場

- ラウンドテーブル
 - 地域のステークホルダーが集まって、地域課題を協議する場
 - 地域の団体がつながって課題解決に取り組める場
- 合同イベント
 - 市民活動団体の見本市のような、団体を知り、つながる機会

人材マッチング・コーディネーター

- コーディネーターの育成が大事
 - コーディネーターが仕事として成り立つ
- 活動のスタートアップ支援
 - 企業を巻き込んでコラボする
- 合同事務局機能
 - 小さな団体の事務機能をサポートしてくれるしくみ

グループ発表



1グループ

- 集まる場、建物はいろいろあるが、手頃な値段・気軽さなどが大事
 - ・やまゆりは拠点として実績がある
- 情報の一元化が大事
 - 興味のあるグループコミュニティが分かる
 - 人材バンク
 - 相談できる人がいる、ここに来れば分かるという場がある
 - 外国人も参加できるコミュニティも意識することが大切
- こども文化センター：子ども同士、親同士の交流！

2グループ

- 場所があるようで、気軽に使えない？
 - ⇒こんなスペースがあったらいい
 - コワーキングスペース（申請がなくても使える／シニアも使える）
 - コミュニティスペース
 - 街角カフェ（区民が気軽に行ける場／事業として成り立つ）
- お金がないと始められない
 - スタートアップのための資金サポート
- 情報の発信力が必要
 - ・連携を促す機会
 - ラウンドテーブル
 - 合同イベント
 - ・活動を支える事務局機能が必要

3グループ

- 活動を継続するために必要なもの
 - ・人材、PR、情報
 - ・やまゆりには情報が集まる

- 麻生区には意外に子育てのイベントがない
 - キッカケとして、みんなが楽しいと思うイベントがあると良い
- （活動を知るキッカケとして）情報の一元化が必要
 - チラシなどのアナログ情報を Facebook にアップする支援

4グループ

- 使いやすい資金支援があること
- 駅から近い場所で人が集まりやすい場所が欲しい
 - 知られていない場の活用
- 運転ボランティアによる移動支援
 - 場のつなぎ役
- 気軽さが大事
 - 不安な人の背中を押すこと
- 他団体のことをもっと知ることができる定期的な集まりがあると良い
 - 多ジャンル多世代の交流がある
 - 告知だけでなく報告も大事

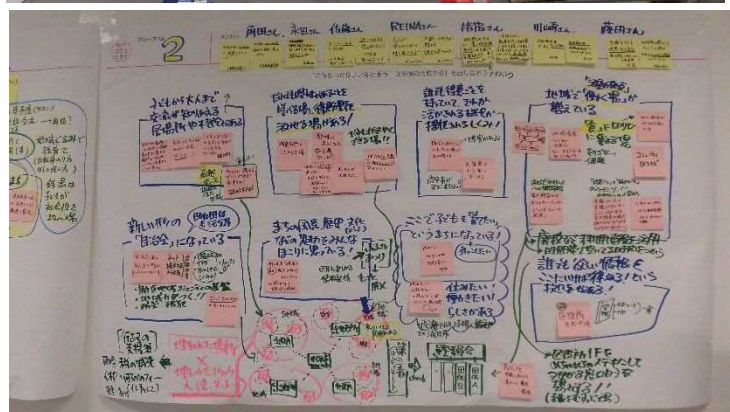
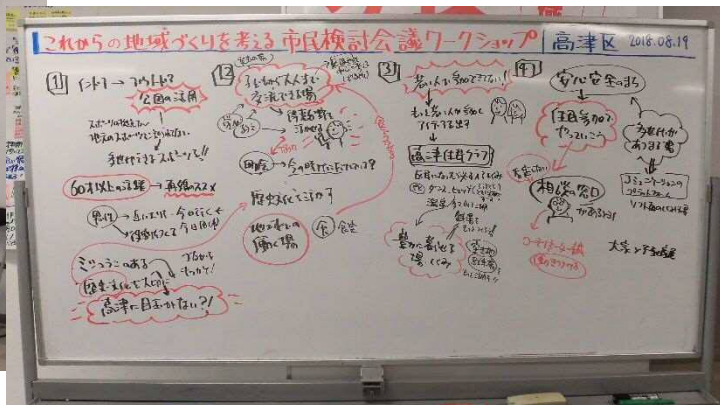
5グループ

- 場所
 - ・コミュニティスペース、カフェ、居場所
 - ・どういう目標でつくるのか考えることが大事
 - ・入ったときの居心地も大事
- 人
 - ・教える人、地元をよく知る人
- 集客、広報支援
 - ・必要としている人は誰か？どこにいるか
- 団体同士のことをお互いを知る→合同イベント
 - コーディネーターの存在が大事

これからの地域づくりを考える
市民検討会議ワークショップ
高津区 開催結果概要

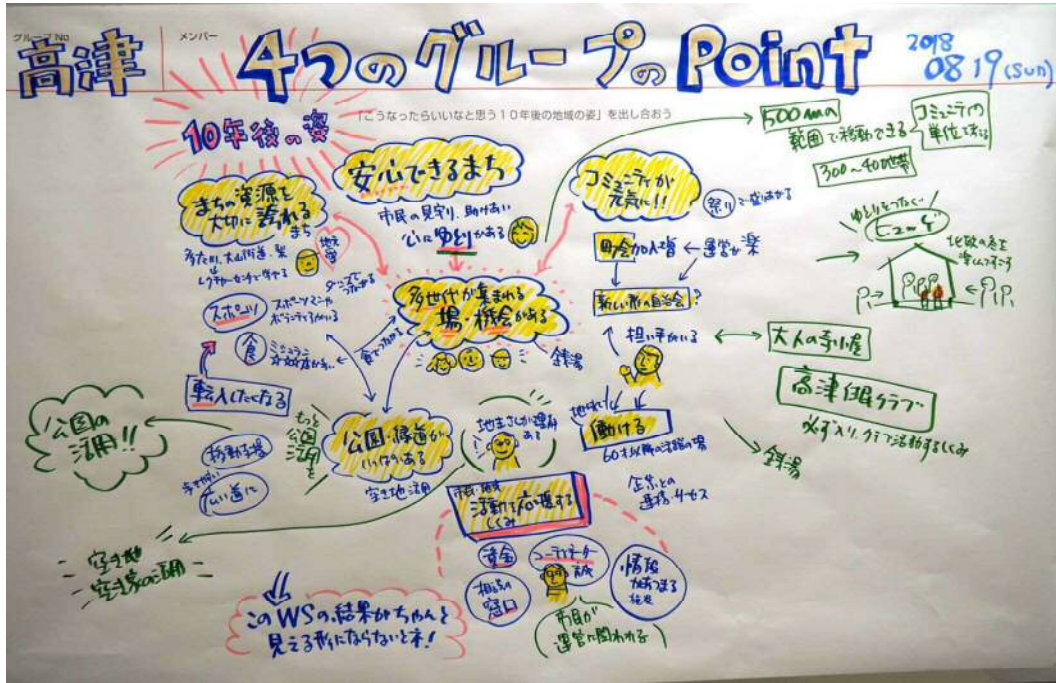
- ◎開催日時 2018(平成30)年8月19日(日) 14:30～17:50
- ◎開催場所 にこぶら新地～二子新地のアート×コミュニティスペース～
- ◎参加者 26名 他22名(事務局、コンサルタント、各区傍聴者)
- ◎内容 開会あいさつ 中村市民文化局コミュニティ推進担当部長
ワークショップの目的と進め方
チェックイン(自己紹介)
グループワーク
 - ・テーマ1 「こうなったらいいなと思う10年後の地域の姿」を出し合おう
 - ・テーマ2 「こうなったらいいなと思う10年後の地域の姿」を実現させるためのアイデアを出し合おうグループワークの発表
閉会あいさつ 高梨高津区長
チェックアウト
- ◎出された主な意見
 - ・インドアからアウトドアへ、公園の活用し多世代ができるスポーツを
 - ・60歳以上の活躍、地域での新しい働き方
 - ・地元企業との連携によるまちづくりの展開
 - ・高津の歴史文化を活かしたつながりやきっかけづくり・まちの資源を誇れるまちへ
 - ・多様な担い手が集まる新しい形の自治会も必要なのでは
 - ・もっと若い人が参加しアイデアが出せるしくみづくり
 - ・多世代が集まる場としてコミュニケーションのプラットフォーム、ソフト面のしくみが必要





市民検討会議ワークショップ（高津区）のまとめ

4つのグループの Point



「こうなったらいいなと思う 10 年後の地域の姿」を出し合おう

まちの資源を大切に誇れるまち

- 多摩川、大山街道、梨
 - レクチャーセンターでまちについて学ぶことができ、地元愛が育まれる
- スポーツ
 - 多様なスポーツマンや、スポーツボランティアがいる
 - ダンスを通して多様な人たちがつながる
- 食
 - ミシュラン三ツ星店が多いまちになる



- 転入したくなる魅力があるまち

安心できるまち

- 市民の見守り、助け合い、心にゆとりがある

多世代が集まれる場・機会がある

- 食でつながる
- 銭湯が地域につながる場として生きる

公園・緑地がいっぱいある（もっと公園活用を）

- 公園の活用!!
- 空き地活用
- 歩きやすい広い道に
- 移動支援

コミュニティが元気に！

- 祭りで盛り上がる
- 町内会・自治会の加入者増／新しい形の地縁組織へ
 - 地縁組織の運営が楽になり、若い世代も関わりやすい
- 地域の担い手がいる
 - 大人の寺子屋
 - 高津住民クラブ（必ず入り、クラブ活動するしくみをつくる）
- 地域で働ける
 - 60歳以降の活躍の場
 - 銭湯（地域ぐるみで孫育て）
- ゆとりをつなぐヒュッゲ（デンマーク語で「居心地がいい時間や空間」の意味）に学ぶ
 - 北欧の冬を楽しんで過ごすという考え方

コミュニティの単位を考える

- 500mの範囲（300～400世帯）で移動できる

市民・地域活動を応援するしくみ

- 地主さんが地域活動に対して理解がある
 - 空き地・空き家の活用
- 資金
- 相談の窓口
- コーディネーター育成

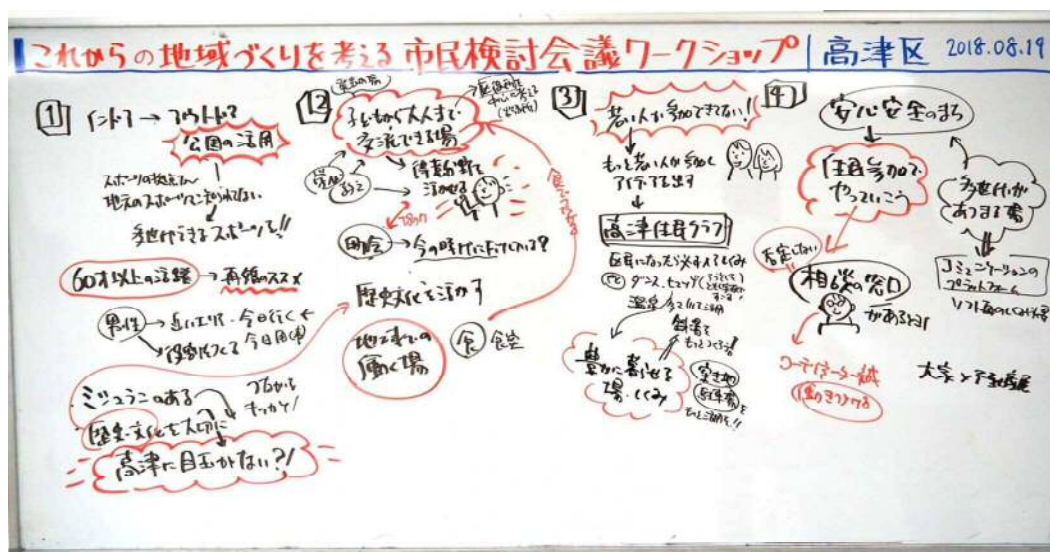
→市民が運営に関わる

○情報が集まる施設

その他

○このワークショップの結果がきちんと見える形になることが大切！

グループ発表



1 グループ

○インドア→アウトドアへ（公園の活用）

→スポーツの拠点が地元のスポーツマンに知られてない

→多世代ができるスポーツを!!

○60代以上の活躍

→60代からの再婚のススメ（孫を通して出会う）

○男性はキョウイク・キョウヨウが必要

→近いエリア→今日行く

→役割をつくる→今日用（事）

○歴史・文化を大切に

→歴史・文化を地域のつながるきっかけに

→高津に目玉がない?!（ミシュランの星3つの店があるまちへ）

2グループ

- 子どもから大人まで交流できる場
 - 世代を越えて学び合い、教え合える場
 - 得意分野を生かせる
 - ダンスを通じた交流・発表の場・盆踊りから盆ダンスへ
 - 区役所を中心に考える（出張所）

- 今の時代にあった町内会・自治会とは

- 歴史・文化を生かす

- 地域で働く場
 - 食堂
 - 食でつながる

3グループ

- 若い人が参加できてない！
 - もっと若い人が参加しアイデアを出す
 - 高津住民クラブ
 - 区民で必ず入るしくみ
 - ex.ダンス、ヒュッゲ（ろうそくを灯し家族で過ごす）、温泉、多摩川を活用
 - 豊かに暮らせるしくみ
 - 銭湯をもっとつくろう！
 - 空き地駐車場をもっと活用を！

4グループ

- 安心・安全のまちが大事
 - 住民の満足度が高いまちへ

- 市民主体の地域活動が盛んなまちにしよう
 - 仕事として続けられるコーディネーターを育成する
 - 相談の窓口があると良い（=否定しないで受け入れてくれる）

- 多世代が集まる場

→コミュニケーションのプラットフォーム

→ソフト面のしゅき必要

○不動産、大家がもっとまちづくりに関わるまち

これからの地域づくりを考える
市民検討会議ワークショップ
多摩区 開催結果概要

🕒開催日時 2018(平成30)年9月8日(土) 13:30~16:40

📍開催場所 多摩区役所11階会議室

👥参加者 30名 他26名(事務局、コンサルタント、傍聴者等)

📋内容 開会あいさつ 中村市民文化局コミュニティ推進部担当部長

ワークショップの目的と進め方

グループワーク

- ・テーマ1 「こうなったらいいなと思う10年後の地域の姿」を出し合おう
- ・テーマ2 「こうなったらいいなと思う10年後の地域の姿」を実現させるためのアイデアを出し合おう

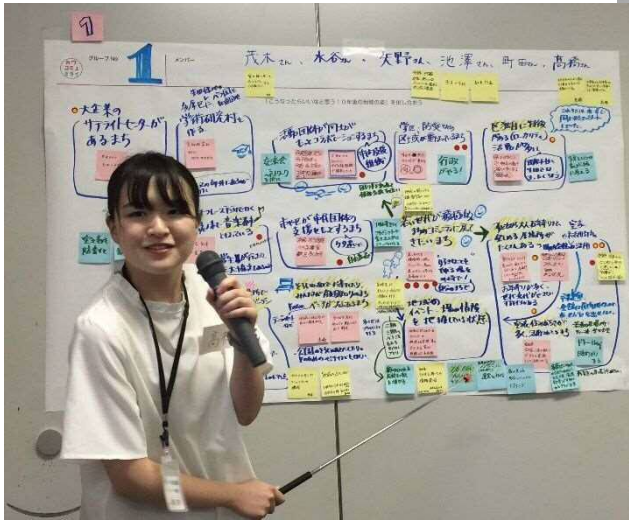
グループワークの発表

閉会あいさつ 石本多摩区長

🗨️出された主な意見

- ・多摩区の魅力が区民に共有されている(Civic Pride)
- ・多世代がつながり、交流がさかんになるまちへ
- ・若い世代が戻ってきたいまち(好きなことがやれる場があること、小さな単位の居場所)
- ・仕事やスキルでつながるまち
- ・7区ごとに活動の拠点があり、つなぎ役のコーディネーター(有償)が必要では
- ・7区横並びではなく、区の独自性を大事にしつつ、7区横のつながりも大事に
- ・生田緑地や多摩川をダイナミックに活用(たまフェスなど)
- ・地域経済の発展、地域通貨の活用
- ・こども文化センターを市民活動の拠点にして、市民自治をつなげる
- ・社会的マイノリティが安心して住める地域に。さまざまなケアを





市民検討会議ワークショップ（多摩区）のまとめ

5つのグループのPoint



全グループの共有の話題として、**多摩区の魅力をみんなで共有**でき、子どもにとって故郷の思い出があり学びにつながり、区民全体でシビックプライドが醸成されていることが「こうなったらいいと思う 10年後の地域の姿」として挙げられた。中でも、区の自然資源として生田緑地や多摩川がもっとダイナミックに活用されていることや、本当の意味で「音楽のまち」になっていることなどが、テーマとして挙げられた。

7区横並びではなく**区の独自性を大切に**すると共に、7区同士が横のつながりをもって、それぞれが何をしているかを把握することも大切であるという意見もあった。

また、シニア世代、子どもや若者、子育て世代から働く世代まで、**多世代のつながりや交流が盛んになる居場所やしくみづくり**について意見が多数出た。

シニアはいつまでも現役で元気に活動できることを、子育てママは地域に居場所があり、地域で自分のスキルを活用できる機会や仕事が地域にある将来像が描かれた。子どもには貧困がなく、教育費の補助や子育てしやすいブランドがあるまちになってほしいということ。働く世代は仕事やスキルを活かして地域とつながるプロボノのような機会があることなどが挙げられた。また、賃貸住宅にいと町内会・自治会には入れないという意見もあり、賃貸でも地域に参加できることも大事という意見もあった。

このように、地域に様々な人々の経験やスキルを生かすことで、地域の様々な世代がつながり、活躍できる場があることがあげられた。

これらの実現に向けたアイデアとして、**地域レベル**では、空き家や空き部屋の活用、住み開きやコミュニティ・ガーデンなどの民間の資源の活用等を通じて、小さな単位で地域の居場所があることが重要視された。また、現在も使われている「地域通貨たま」

の活用を通して地域参加が促され、地域でのお金の循環が進み、地域経済の発展につながっていくというアイデアも出された。

また、**区域レベル**では、団体などが活動に利用し交流できる拠点（コワーキングスペース等）があることや、仕事やスキルを地域の課題とつなげる有償のコーディネーターの必要性が提案された。そのような場として、企業のサテライトセンターのような民間の機能の活用の可能性が挙げられた。

「こうなったらいいなと思う 10 年後の地域の姿」を出し合おう

多摩区の魅力が区民に共有されている（シビックプライド）

- 生田緑地・多摩川をダイナミックに活用
 - 防災が万全
 - 手本にされるまち
- 7区横並びではなく、区の独自性を大事に
 - ↓
- 7区の横のつながり・連携を大事に
 - それぞれが何をしているかを把握しつつ、各区が独自性を持っている
 - 独自性と連携のバランスが大事
- 本当に音楽のまちになる

多世代のつながり・交流が盛んになる

- シニア世代
 - いつまでも現役！
 - 健康長寿ランド
 - いつまでも元気で活動できる
 - 地域包括ケアが広がる
- 子ども・若者
 - ふるさととして思い出に残る
 - 卒業しても帰ってくる
 - 大企業のサテライトセンター
 - 学び・遊びでつながる
 - 貧困がない →子育てしやすい
- 子育て世代

- 教育費が補助される
- 「子育てしやすい」がブランド化
- PTA のイメージアップ
- ママの居場所
 - ママの集まるスペース

○働く世代

- 賃貸でも町会など、コミュニティに参加できる（若者世代の参加）
- 仕事やスキルでつながる
 - 地域に仕事がある
 - プロボノで地域に貢献
 - ママのスキル活用（有償）

地域に仕事がある

- 7区ごとに活動の拠点がある
- ゆるやかに他の団体とつながる会議
 - コワーキングスペース
 - 仕切りがない会議室で、他のテーブルがやっている議論が聞こえてくることによって、つながるきっかけとなる場所貸し
- つなげ役のコーディネーター（有償）
- コワーキングスペース
- 地域経済が発展
- 地域通過「たま」が活躍！
- ボランティアも有償に

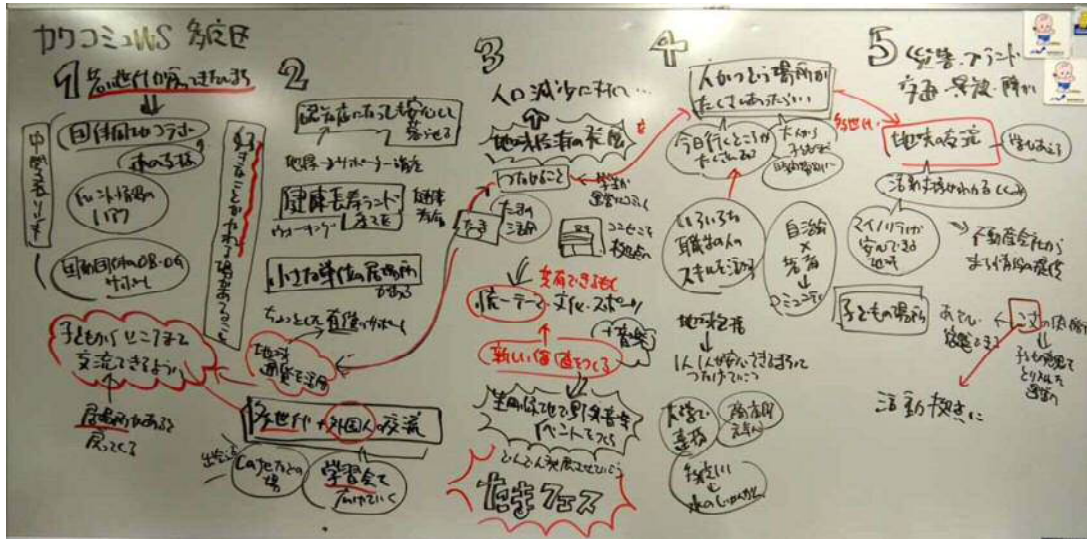
小さな単位の居場所

- あちこちで住み開き
- コミュニティガーデン

その他

- イベント情報が把握できる
- 認知症カフェが増えている

グループ発表



1 グループ

- 若い世代が戻ってきたいまち
→もっと積極的にまちのコミュニティに戻ってきたいまち
- ↓ そのためには
- 団体同士がもっとコラボレーションできている
- 地域のイベント情報を把握している
- ↓
- 中間支援組織
→活動団体がコラボできるような中間支援組織の充実が必要
- 子どもからシニアまで交流できるまち
→居場所があると戻ってくる
- 好きなことをやれる場があること

2 グループ

- 認知症になっても安心して暮らせる

→地縁 →サポーター講座

○健康長寿ランド多摩区

→ウォーキングを通じて健康づくり

→健康寿命

○小さな単位の居場所がある

→ちょっとした有償のサポート

→地域通貨を活用

○多世代+外国人の交流

→外国人にも出会えるカフェなど、交流できる場が必要

→学習会を広げていく

3グループ

○人口減少に対して、地域経済の発展

○つながること

→学生が運営にコミット

○地域通貨「たま」の活用

→子どもにも使ってもらって、学習にもつなげる

○コンビニを拠点に

○共有できる、統一テーマ（文化・スポーツ・音楽）

→新しい価値をつくる

○生田緑地で野外音楽イベントをつくる

○たまフェス

→生田緑地で実績を積んで、どんどん発展させていこう

→向ヶ丘遊園跡地に野外音楽ステージができる

4グループ

○人が集う場所がたくさんあったらいい

→今日行くところがたくさんある

→大人から子どもまで、時間帯別に

- いろいろな職業の人のスキルを生かす
- 自治体×若者 →コミュニティ
- 地域包括ケアシステムの構築
 - 一人一人が安心できるまちにつなげていこう
 - 地域全体で地域の見守りをつくる
- 大学と連携
- 商店街を元気に
- 多摩川を守って、地域内で水の循環

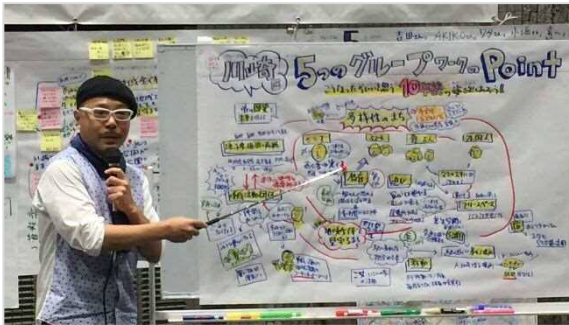
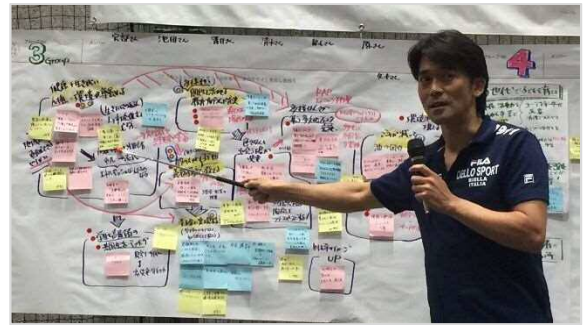
5グループ

- 多世代で地域の交流
 - 学びあえる
- 活動対象が分かるしくみ
 - ボランティアを募集する団体・参加したい人をつなげるしくみが必要
 - 不動産会社から（転入者に）まちの情報を提供
- 子どもの場所
 - 遊び・宿題ができる場所
 - こども文化センターの使い勝手を子どもの意見を取り入れた運営に変えていく
 - こども文化センターを団体の活動拠点としても活用
- 社会的マイノリティが安心できる地域
- （その他）災害、ブランド、交通、景観、障がい者

これからの地域づくりを考える
市民検討会議ワークショップ
川崎区 開催結果概要

- ◎開催日時 2018(平成30)年9月15日(土) 13:30~17:00
- ◎開催場所 unicourt
- ◎参加者 35名 他40名(事務局、コンサルタント、傍聴者等)
- ◎内容 開会あいさつ 阿部市民文化局コミュニティ推進部長
ワークショップの目的と進め方
グループワーク
 - ・自己紹介
 - ・テーマ1 「こうなったらいいなと思う10年後の川崎区のミライ」を出し合おう
 - ・テーマ2 「こうなったらいいなと思う10年後の川崎区のミライ」を実現させるために「自分たちができること」のアイデアを出し合おう
 グループワークの発表
 閉会あいさつ 水谷川崎区長
- ◎出された主な意見
 - ・外国人と共存・共栄し、どこよりも多様性のまちとして、本当のダイバーシティを目指す
 - ・地縁組織を再編し、市民活動団体と連携して、地域の課題解決を
 - ・市民活動や地域課題のコーディネーターがいるまち
 - ・高齢者は光齢者、市民は志民として、個性を生かし、地域全体で子どもを見守るまち
 - ・大好きな川崎を育てるカワサキプライド
 - ・おせっかいコンシェルジュ認定制度の導入
 - ・ゴミを新たな資源として活用する
 - ・関心事(健康やスポーツなど)をきっかけに多世代間交流





市民検討会議ワークショップ（川崎区）のまとめ

こうなったらいいと思う 10年後の姿の Point



川崎区の「こうなったらいいなと思う10年後の姿」の議論では、5つのグループに共通するテーマとして、川崎区の特徴である、**多様性を大切に**するまちが挙げられた。多くの外国人が住む川崎区では、文化や考え方等が異なる人が共存できるまちを目指すことが重要である。その実現のために、市の歴史を未来に伝えること、ラップやエスニックなど川崎区の個性的な文化を活かした「**多文化フェスティバル**」による外国人との共存・共栄のアイデアが出されている。こうした取り組みの先に、**多様性に対応した防犯のあり方が整い、どこよりも安全なまち**につなげたいという想いも寄せられた。

また、**多様な世代が地域全体で子どもを見守っているまち**というキーワードも多くのグループで出されている。大人が子どもの義務教育に関わる場やきっかけがあることで、子どもが様々な人と触れ合う機会が創出されるとともに、学校や子育て世代の手助けになるしくみができることが重要視された。特に高齢者を「**光年齢者**」と捉え、いつまでもエネルギーに地域で活躍できること。市民は「**志民**」として、地域課題に取り組む社会が必要だというキーワードが出されている。

子どものための場や機会として、**遊び、公園**というキーワードが多く出た。遊びに関しては、ボール遊びができる公園が求められると共に、小さな子どもも安心して共存できる場所が必要である。さらに、公園には**ポジティブな機能が期待**されており、芝生がある公園や交通などを学べる公園、プレーパークなどが提案された。

自由にアイデアを実現でき、地域で働く機会にもつながるようなフリースペースがあ

ると、子育てママのスキルを活かせる場所や機会ができて良いという意見があった。既存の施設として、こども文化センターやいこいの家の活用、後継者問題で悩む商店街では空き店舗の活用によるにぎわいの創出などのアイデアが挙げられた。

大人から子どもまで集まれる**地域の拠点**が、川崎駅の近くなど利便性の高い場所にあるとともに、地域の身近な場所にも点在している重要性が指摘された。また、現在の川崎区の交通網を踏まえ、これらの拠点をつなぐ移動手段の確保も必要であると提案された。

地域コミュニティの組織として、町内会・自治会をはじめ、民生児童委員や老人会、PTAなどの**地縁組織の再編**の必要性や、町内会・自治会の加入率100%につなげる工夫、**市民活動団体との連携による地域課題の解決力の向上**が挙げられている。そのためには、市民が自分ごとで主体的に地域に関わるような意識の向上を促すような、**コーディネーターの必要性**も挙げられている。

その他、資源の活用によりごみがなくなるまち、みどりがもっと豊かになるまち、買い物便利なまちなどが挙げられた。

「こうなったらいいなと思う10年後の川崎区のミライ」を出し合おう

多様性のまち（どの区よりも）

- 多文化フェスティバル
→ラップ、エスニックなど
- 外国人との共存・共栄
- 多様性に対応した防犯も必要

多世代で、地域全体で見守るまち

- シニア
→いつまでもエネルギーに
→高齢者は光る齢＝「光齢者」
→市民は志のある民＝「志民」
- 子ども
- 親・大人
- 外国人

世代間交流の場

- 教育（シニア、子ども）
→教育の質をアップ

- 義務教育に一般の人が関わる
- 個性を生かせる
- 寺子屋が目指す姿

○遊び（子ども、親・大人）

- 安心して遊べる →時間もある
- ボールが使えると共に、小さな子どもも安心して共存できる
- 居場所がある →いつまでも、高校生になっても関われる
- プレーパークがある

○公園

- 共生空間を富士見公園に！
- 芝生がある空間ができています
- 交通公園で交通教育を

○ママのスキルが活かせる（親・大人）

○フリースペース（親・大人）

- 働ける、自由に使える
- アイデアを実現できる

○駅の近くに集える場所

- 一方で、駅に集中しない拠点も必要
(地域の身近なところにも拠点が必要)

○移動

- タテ移動・ヨコ移動
- 市民が活用する拠点をつなぐ移動手段が充実する

○子ども文化センター・いこいの家の活用

○人が集まる場所とは

- にぎわいがある →ダンスしていい場所など
- ↑
- 防犯（安全性）も大事
- 多様性があるまちは、多様な防犯対策もセットで考える必要がある

地縁組織の再編

○町内会、自治体、民生委員、PTA、老人会などをトータルに一体化

- 地縁組織のあり方を考えることが必要かも

- 自助、互助、共助がもっと進む
- 町内会、めざせ加入率 100%

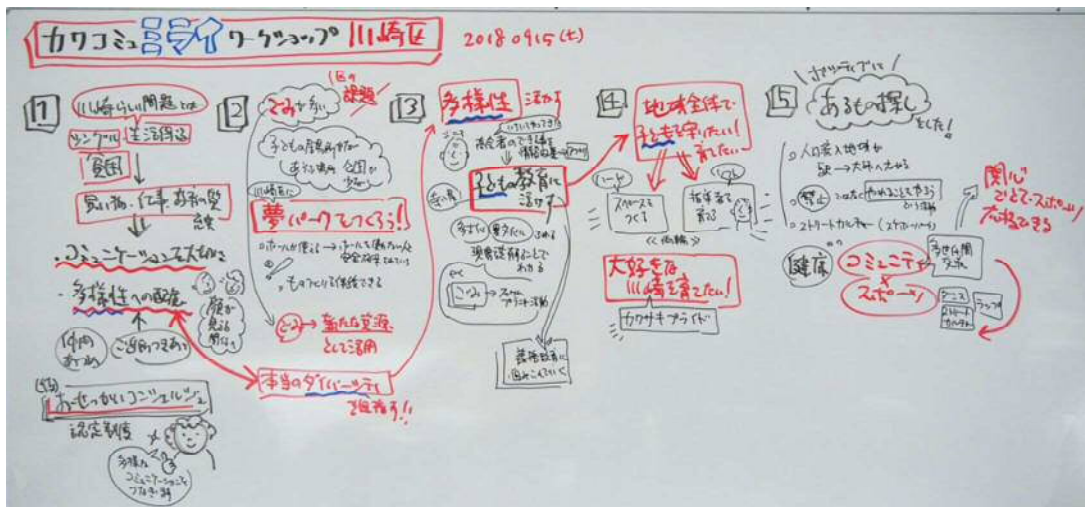
市民活動団体

- 連携して地域の課題解決を！
 - 仲間を集める
 - 市民が主体に活動する
 - 自分ごと、我がごと化
- 市民活動を地域課題につなげるコーディネーターがいる
 - 関心がないひとが地域課題・活動に入れる流れが必要

その他

- 市の歴史を未来に伝える
- ゴミがなくなる ↔ みどり豊かになる
 - 資源の活用
- 店
 - 商店街
 - 後継がない
 - 活性化、空き店舗活用
 - 買い物が便利に

グループ発表



1 グループ

- 川崎区らしい問題とは？
 - シングル
 - 生活保護
 - 貧困
 - 買い物、仕事、教育の質の充実

- コミュニケーションを大切に
 - 顔が見える関係へ

- 多様性への配慮
 - 仲間集め
 - ご近所付き合い

- （仮称）おせっかいコンシェルジュ
 - 多様なコミュニケーションをつなぐ人
 - 認定制度があると良い

2 グループ

- ゴミが多い（区の課題）
 - ゴミを新たな資源として捉え活用する

- 子どもの居場所がない、遊ぶ場所や公園が少ない

- 川崎区にも「夢パーク」を作ろう！
 - ボールが使えるとともに、ボールを使わない人の安全も確保されている
 - ものづくりを体験できる

- 本当のダイバーシティを目指す！

3 グループ

- 多様性を活かす

- 高齢者のできることを情報収集
 - 高齢者はこれまでにやってきたことを集約
 - アプリをつくる



- 子どもの教育に活かす
→寺子屋事業に反映
- 子どもが多文化・異文化に触れる
→現場を共有することでわかる
→例：ゴミはせっけんプラントに活用
→義務教育に組み込んでいく

4グループ

- 地域全体で子どもを守りたい、育てたい！



- スペースを作る（ハード）
→みんなが集まれる場所があってほしい
 - 指導者を育てる（ソフト）
→団体や場所をつなげる人材の創出が必要
 - 大好きな川崎を育てたい
→カワサキプライド
→みんなが好きな関わりをもってほしい
- 両輪

5グループ

- ポジティブに「あるもの探し」をした！
- 人口流入地域が、駅→大師へ広がる
- 「禁止」ではなく、「やれることをやろう」という活動
- ストリートカルチャー（スケボーパーク等）
- 健康、コミュニティ×スポーツ
→コミュニティ：多世代間交流
→スポーツ：ダンス、ストリートカルチャー、ラップ等

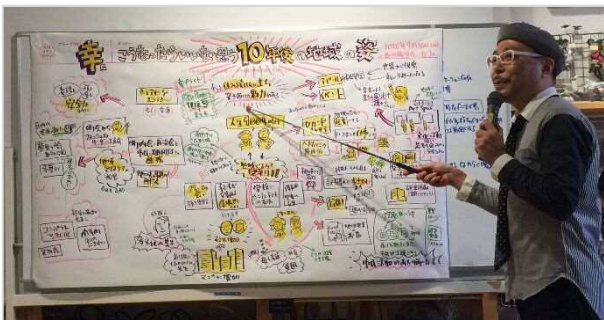
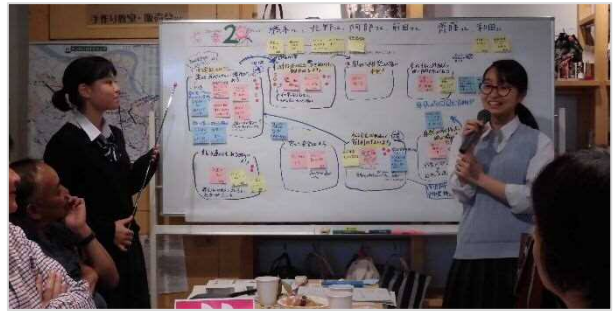
○スポーツという観点から

→区民の関心ごとをスポーツという観点から発信する

これからの地域づくりを考える
市民検討会議ワークショップ
幸区 開催結果概要

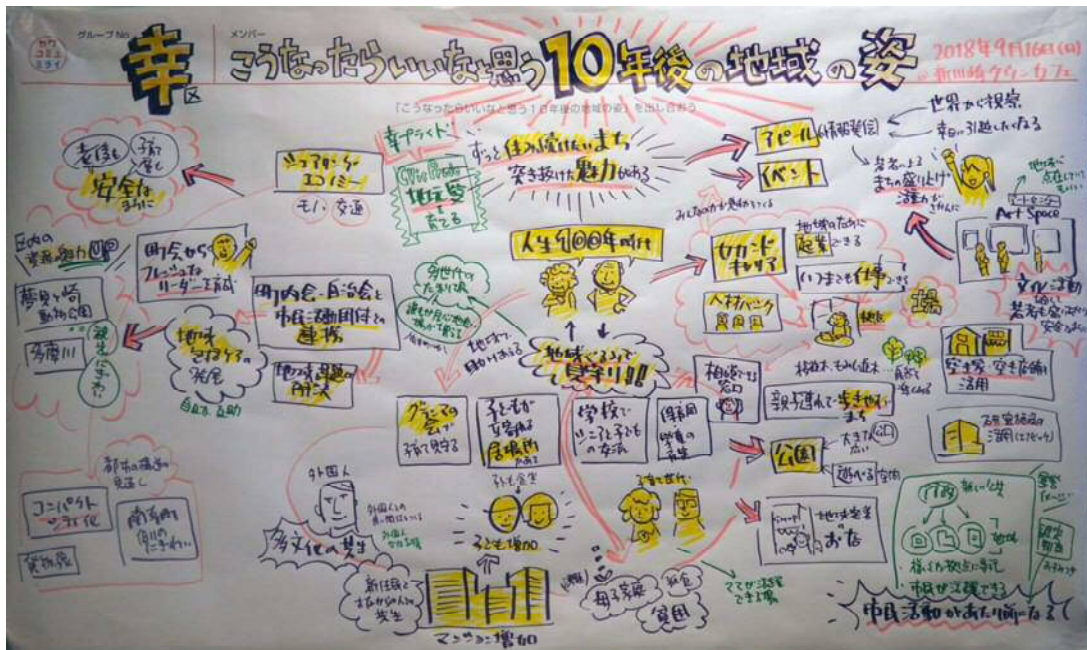
- ④開催日時 2018(平成30)年9月16日(日) 13:30~16:40
- ④開催場所 新川崎タウンカフェ
- ④参加者 25名 他30名(事務局、コンサルタント、傍聴者等)
- ④内容 開会あいさつ 阿部市民文化局コミュニティ推進部長
ワークショップの目的と進め方
グループワーク
 - ・自己紹介
 - ・テーマ1 「こうなったらいいなと思う10年後の地域の姿」を出し合おう
 - ・テーマ2 「こうなったらいいなと思う10年後の地域の姿」を実現させるためのアイデアを出し合おうグループワークの発表
閉会あいさつ 石渡幸区長
- ④出された主な意見
 - ・ずっと住みたくなる突き抜けた魅力のあるまち(地元愛を育む)
 - ・人生100年時代、地域ぐるみで見守りを。子育て層も老後も安心して暮らせるまち
 - ・人材バンクによるセカンドキャリア支援
 - ・新しい公共、公益、共生のあり方を考えよう
 - ・市民活動が当たり前になるまち
 - ・町内会・自治会と市民活動団体が連携して、地域課題の解決や地域包括ケアシステムの発展へ
 - ・多世代が利用できる地域の核となる居場所のあるまち
 - ・新住民と旧住民の共生、多文化共生
 - ・区内の資源(夢見ヶ崎動物公園や多摩川など)の魅力 up
 - ・若者によるまちの盛り上げ活動が盛んなまち(YouTube、SNS などによる情報発信)





市民検討会議ワークショップ（幸区）のまとめ

4つのグループの Point



幸区では、「ずっと住みたいまち」（＝地元愛を育てる「幸プライド」）が各グループに共通する理想の10年後の未来の姿として挙げられた。そのためには、「突き抜けた魅力がある」ことが大事で、その魅力のアピールや、区民の力で魅力をつくるイベントの開催等を通して、世界中から視察が来たり、住みたいまちに選ばれたり、ということにつながるイメージである。

夢見ヶ崎動物公園や多摩川など、既存の資源の一層の魅力アップとともに、桜並木やもみじ並木といった四季を通して自然が楽しめて、親子連れで安心して歩きたくなる道が生まれ、大きな公園、遊べる空間に恵まれることも将来像として挙げられた。

また、高校生や、(自称)地域アイドルなど、他区と比べて今回若者の参加が多いのが特徴的であったことから、**若者による地域の盛り上げがさらに活性化すると、地域の魅力がさらに高まるのでは**という意見が印象的だった。具体的には、アートをはじめとする文化活動等を通じて若者が活動を発信できる場所や地域で活動するチャンスが増えるきっかけ等があると良いというアイデアが出た。

また、「**人生100年時代**」をキーワードに、地域でセカンドキャリアが持てて、いつまでも働き続けられる地域が、より豊かなコミュニティのあり方として挙げられた。そのためには、**人材バンクの立ち上げや、空き家、空き店舗や研究施設を活用した、仕事をするための拠点づくり**が必要であるとされた。

「**地域ぐるみでお互いに見守るしくみ**」というキーワードも挙げられた。これはマンションの増加で子どもは増えている一方、貧困や母子家庭、孤食が課題として挙げられていることが背景となっている。**地域レベル**では、区に長く住んでいる人から多文化の

人まで誰もが立ち寄れるたまり場や、子ども食堂のような子どもが立ち寄れる居場所、「グランマの会」という子育てを卒業したシニアが子育てを見守るしくみ、学校でシニアと子供が交流する機会、保育園・学童保育のさらなる充実、地域密着のお店の充実などが提案された。**区域レベル**では、行政に限らず様々な市民団体なども活動に使える「**新たな公共施設**」や**相談できる窓口**のあり方が提案された。

コミュニティのあり方としては、町内会・自治会と市民活動団体との連携が進み共に地域の課題解決が進められること、町内会・自治会にはフレッシュな次世代リーダーが育成されること、地域包括ケアシステムが発展し自助・互助が進むこと、市民活動が当たり前になっているまちであることが挙げられた。活動団体のお墨付きになるような**認定のしくみ**や、地域の様々なスペースには、**市民が施設運営に関われるような新しい公共のイメージ**が挙げられた。

まち全体の話として、まちのコンパクトシティ化や、モノや交通をシェアするシェアリングエコノミーの考え方などのキーワードも出された。

「こうなったらいいなと思う 10 年後の地域の姿」を出し合おう

ずっと住み続けたいまち、突き抜けた魅力がある

- アピール（情報発信）
 - 世界から視察があるようなまち
 - 幸区に引っ越したくなる
- イベント
- 若者によるまちの盛り上げ活動が盛んに
- 文化活動を通して若者も盛り上がり、安全なまちに
 - アートセンター（Art Space）
 - 地域に点在していてもいい

人生 100 年時代

- セカンドキャリア
 - 地域のために得意なことを生かして起業できる
 - いつまでも仕事できる
 - 人材バンク
 - 拠点がある
- みんなの力が魅力をつくる
 - そういうものがあることでより豊かな人生 100 年の時代になる

場・拠点

- 空き家・空き店舗の活用
- 研究施設の活用
 - エアビック等
- 新しい公共の運営イメージ
 - 行政だけでなく市民も活用する新しい公共
 - 様々な拠点に委託
 - 認定制度、お墨付き



- 市民活動があたり前になる
 - 若者が自分たちの力で地域を盛り上げるようになる

地域ぐるみで見守り

- マンションの増加
 - 人口や子どもが増加
 - 一方で、母子家庭、孤食や貧困などが課題
- ＜地域で助け合える＞
- 多世代のたまり場
 - 誰もが居心地良い場が増える →南幸町にも
- 新住民と昔ながらの人との共生
- 多文化の共生
 - 外国人との良い関係を作る
 - 外国人女性支援
- グランマの会が子育てを見守る
- 子どもが立ち寄れる居場所がある
 - 子ども食堂
- 学校でシニアと子どもの交流
- 子育て世代・ママが活躍できる場
- 保育園・学童保育の充実
- 相談できる窓口がある

親子連れで歩きやすいまち

- 公園
 - もっと大きな広い公園があるといい
 - 遊べる空間なども
- 自然を楽しめるまち
 - 桜並木やもみじ並木など
- 地域密着のお店がある

町内会・自治会と市民活動団体との連携

- 地域課題の解決

- 町会からフレッシュなリーダーを育成
 - 町会・商店街から地域課題解決の担い手を
- 区内の資源の魅力を UP
- 観光・にぎわい
 - 夢見ヶ崎動物公園
 - 多摩川
- 地域包括ケアシステムの発展
 - 自助、互助

都市構造の見直し

- コンパクト・シティ化
- 貨物線
- 南幸町側のにぎわい

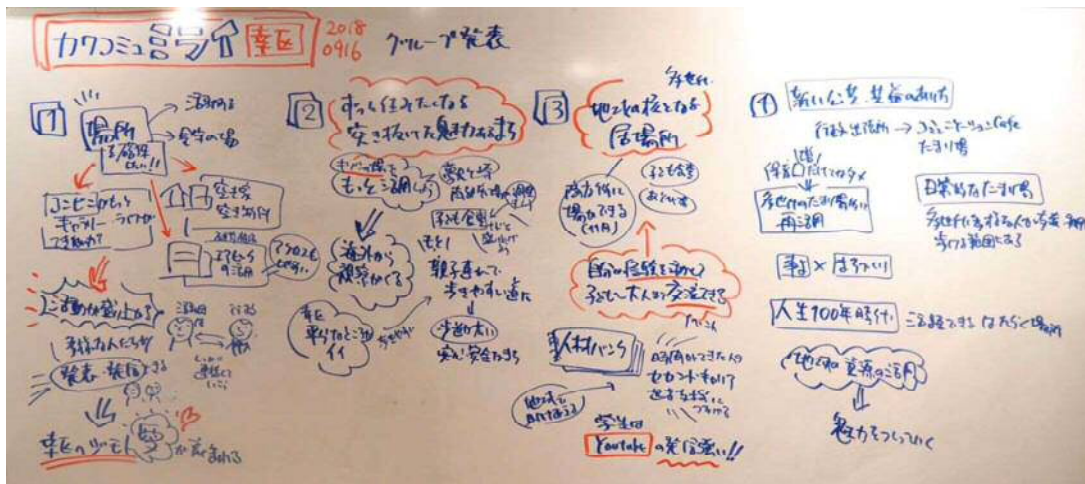
シビックプライド：幸プライド

- 地元愛を育てる

その他

- シェアリング・エコノミー（モノ、交通）
- 安全なまちに
 - 老後も子育て層も

グループ発表



1 グループ

- 場所を確保したい
 - 活動する
 - 見守りの場
- コンビニがもっとギャラリー・ライブができないか？
- 空き家・空き物件
- 研究施設エアビックの活用
 - アクセスもしやすい
- 活動が盛り上がる
 - 活動団体と行政がしっかり連携していこう
- 多様な人たちが発表・発信できる
- 幸区の地元愛が育まれる

2 グループ

- ずっと住みたくなる突き抜けた魅力あるまち
- 既存の場をもっと活用しよう
 - 夢見ヶ崎動物公園
 - 南部市場の調理機能

→子ども食堂などを盛り上げよう

- 海外から視察がくる
- もっと親子連れで歩きやすい道に
 - 歩道が広い
 - 安心・安全なまち
- 幸区は平らなところがイイ
 - 歩きやすい

3グループ

- 地域の核となる多世代の居場所
 - 子ども食堂
 - 遊び場
- 商店街にできる新たな場の活用
 - 11月に新しくオープンするシエルの活用
- 自分の経験を活かして、子どもから大人まで交流できるイベント
- 人材バンク
 - 時間ができた人のセカンドキャリア
 - 起業支援につながる

→地域で助けあえる
- 学生は SNS や YouTube の発信が強い！

4グループ

- 新しい公共・共益のあり方
 - 行政出張所 →コミュニケーション・カフェ、たまり場
- 日常的なたまり場
 - 多世代・多様な人が交流・利用
 - 歩ける範囲にある
- 多世代のたまり場として再活用
 - 保育園を増やすだけではダメ

○事業×まちづくり

→町内会、市民団体、エリアマネジメントの連携

○人生 100 年時代

→活躍できる働く場所

○地域の資源の活用

→魅力をつくっていく